




**OpenManage Integration for VMware vCenter  
vSphere Web Client バージョン 2.3.1 用クイックイ  
ンストールガイド**



# メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

**著作権 © 2015 Dell Inc. 無断転載を禁じます。** この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell<sup>®</sup>、およびデルのロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2015

Rev. A00

# 目次

<b>1 インストールのクイックスタート</b> .....	<b>4</b>
インストールについて.....	4
作業を開始する前に.....	4
製品ハードウェア要件.....	5
ソフトウェア要件.....	5
インストールと設定の概要.....	5
<b>2 OpenManage Integration for VMware vCenter の設定または編集方法の理解</b> .....	<b>13</b>
設定ウィザードようこそページ.....	13
vCenter の選択.....	13
初期設定ウィザードを使用した新規接続プロファイルの作成.....	14
インベントリジョブのスケジュールウィザード.....	16
保証取得ジョブウィザードの実行.....	16
イベントおよびアラームの設定ウィザード.....	17
<b>3 その他の構成設定</b> .....	<b>18</b>
保証期限通知.....	18
保証期限通知の設定の表示.....	18
保証期限通知の設定.....	18
ファームウェアアップデートリポジトリ.....	19
ファームウェアアップデートリポジトリの設定.....	19
OMSA ウェブサーバー URL.....	19

# インストールのクイックスタート


## インストールについて


本ガイドは、OpenManage Integration for VMware vCenter の Dell サーバーへのインストールと設定方法を順を追って説明しています。インストールが完了した後は、インベントリ管理、監視とアラート、ファームウェアアップデート、および保証管理を含むすべての管理面に関する情報について、『OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。

## 作業を開始する前に

製品をインストールする前に、次の情報が整っている必要があります。

- OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想アプライアンスに割り当てる TCP/IP アドレス情報。
- OpenManage Integration for VMware vCenter が vCenter Server にアクセスするためのユーザー名およびパスワード。これは、すべての必要な許可を持つ管理者役割である必要があります。vCenter 内で使用できる OpenManage Integration for VMware vCenter 役割についての詳細は、『User's Guide』（ユーザーズガイド）の「OpenManage Integration for VMware vCenter の設定」の章を参照してください。
- ESX/ESXi ホストシステム、またはホスト上の管理者権限を持つ Active Directory のルートパスワード。
- iDRAC Express または Enterprise に関連付けられたユーザー名およびパスワード（iDRAC を含むホストシステム用のみ）。
- vCenter サーバーおよび vSphere Web Client が現在実行中であることを確認してください。
- OpenManage Integration for VMware vCenter OVF ファイルの場所を確認してください。
- 仮想アプライアンスに登録される vCenter インスタンスによって管理されている、すべての ESX/ESXi ホスト上に OpenManage Integration for VMware vCenter（仮想アプライアンス）をインストールしてください。
- お使いの VMware vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たす必要があります。さらに、クライアントシステムには Adobe Flash player 11.5 またはそれ以降をインストールしてください。VMware マニュアルについての詳細は、VMware vCenter 5.5 ユーザーズガイドとリリースノート を参照してください。

 **メモ:** 通常の仮想マシンとしての仮想アプライアンスの機能。中断またはシャットダウンは、仮想アプライアンスの全体的な機能に影響を与えません。

 **メモ:**

OpenManage Integration for VMware vCenter は、ESXi 5.5 以降に導入されたときに、VMware ツールを「実行中（旧式）」として表示します。必要に応じて、アプライアンスの導入が正常に行われた後、またはいつでも VMware ツールをアップグレードできます。

## 製品ハードウェア要件

OpenManage Integration for VMware vCenter は、iDRAC Express または iDRAC Enterprise 搭載のサーバー向けには完全機能サポート、また、古い世代の Dell サーバー向けには限定的な機能サポートというように、Dell サーバー数世代に対する完全サポートを提供します。プラットフォーム要件の詳細は、OpenManage Integration for VMware vCenter リリースノートに記載されています。お使いのホストサーバーに適合するかどうかを確認するには、リリースノートにある次の表を参照してください。

- 対応サーバーと最小 BIOS
- サポートされる iDRAC バージョン（導入および管理の両方）
- 古いサーバーに対する OMSA サポートと ESX/ESXi バージョンサポート（導入および管理の両方）


## ソフトウェア要件

vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たす必要があります。

VMware vSphere にはデスクトップクライアントとウェブクライアントの両方があります。

### ウェブクライアント向けの要件

- vCenter 5.5 またはそれ以降に対応します。

 **メモ:** OpenManage Integration for VMware vCenter と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。

具体的なソフトウェア要件については、『OpenManage Integration for VMware vCenter リリースノート』を参照してください。

### OpenManage Integration for VMware vCenter のポート要件

- 443 (https) および 80 (http) - 管理コンソール用
- 4433 (https) - 自動検出およびハンドシェイク用
- 162 および 11620 - SNMP トラップリスナー用
- 2049、4001、4002、4003、4004 - NFS 共有用

## インストールと設定の概要


次の高レベルの手順は、OpenManage Integration for VMware vCenter の全体的なインストール方法の概要を説明しています。これらの手順では必須ハードウェアが取り付け済みで、必須 VMware vCenter ソフトウェアが実行中であることを前提としています。PowerEdge 第 12 世代以降のサーバーへのインストールでは、OMSA エージェントのインストールは必要ありません。OMSA について詳細は、『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。

次の情報は、インストール手順の概要を示しています。実際のインストールを開始するには、「[Deploy OVF Using Web Client](#)」（Web Client を使用した OVF の展開）を参照してください。

### インストールの概要

1. OpenManage Integration for VMware vCenter をインストールします。
  - a. システムは接続済みであること、および vCenter サーバーと vSphere クライアント、vSphere Web Client が実行中であることを確認してください。
  - b. vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、OpenManage Integration for VMware vCenter が含まれる Open Virtualization Format (OVF) ファイルを展開します。


- c. ライセンスファイルをアップロードします。
- d. 管理コンソールを使用して OpenManage Integration for VMware vCenter を vCenter Server に登録します。

 **メモ:** FQDN を使用した登録が強く推奨されます。IP/FQDN ベースの登録の両方で、vCenter のホスト名が DNS サーバーによる適切な解決が可能である必要があります。

2. 初期設定ウィザードを完了します。


## vSphere Web Client を使用した OpenManage Integration for VMware vCenter OVF の展開

この手順は、製品 zip ファイル (Dell\_OpenManage\_Integration\_<バージョン番号>.<ビルド番号>.zip) が Dell ウェブサイトからダウンロードおよび解凍されていることを前提としています。

 **メモ:** シックプロビジョン Eager Zeroed はこのインストールに推奨されるディスクの形式です。

vSphere Web Client を使用して OpenManage Integration for VMware vCenter OVF を展開するには、次の手順を実行します。

1. ダウンロードして解凍した OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想ディスクの場所を検索し、**Dell\_OpenManage\_Integration.exe** を実行します。
2. EULA に同意してクイックインストールガイドを抽出し、OVF ファイルを取得します。
3. アプライアンスをアップロードする VMware vSphere ホストへのアクセスが可能な場所に、OVF ファイルをコピー/移動します。
4. VMware vSphere Web Client を開始します。
5. VMware vSphere Web Client からホストを選択し、メインメニューで **処置** → **OVF テンプレートの展開** をクリックします。また、ホストを右クリックして **OVF テンプレートの展開** を選択することもできます。**OVF テンプレートの展開** ウィザードが表示されます。
6. ソースの選択 ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
  - a. **URL**: インターネットから OVF パッケージをダウンロードする場合、**URL** ラジオボタンを選択します。
  - b. **ローカルファイル**: ローカルシステムから OVF パッケージを選択する場合、**ローカルファイル** ラジオボタンを選択して **参照** をクリックします。


 **メモ:** OVF パッケージがネットワーク共有にある場合、インストールには 10~30 分かかります。短時間でインストールしたい場合は、OVF をローカルドライブでホストすることをお勧めします。

7. **次へ** をクリックします。**詳細の表示** ウィンドウが表示されます。
8. 次の情報が **詳細の表示** ウィンドウに表示されます。
  - a. **製品**: OVF テンプレート名が表示されます。
  - b. **バージョン**: OVF テンプレートのバージョンが表示されます。
  - c. **ベンダー**: ベンダー名が表示されます。
  - d. **発行者**: 発行者の詳細が表示されます。
  - e. **ダウンロードサイズ**: OVF テンプレートの実際のサイズ (ギガバイト単位) です。
  - f. **ディスクのサイズ**: シックおよびシンプロビジョニングの詳細が表示されます。
  - g. **説明**: コメントを表示できます。
9. **次へ** をクリックします。**名前とフォルダの選択** ウィンドウが表示されます。
10. **名前とフォルダの選択** ウィンドウで次の手順を実行します。
  - a. **名前** テキストボックスで、テンプレートの名前を入力します。この名前は半角文字で 80 文字以下となるようにします。
  - b. **フォルダまたはデータセンターの選択** リストで、テンプレートを展開する場所を選択します。
11. **次へ** をクリックします。**ストレージの選択** ウィンドウが表示されます。
12. **ストレージの選択** ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
  - a. **仮想ディスクフォーマットの選択** ドロップダウンリストから、仮想ディスクの保存用にシックプロビジョン (レイジーゼロ)、シックプロビジョン (イーガーゼロ)、またはシンプロビジョンを選択します。シックプロビジョン (レイジーゼロ) を選択することをお勧めします。

- b. VM ストレージポリシー ドロップダウンリストから、ポリシーのいずれかを選択します。
- 13. 次へをクリックします。ネットワークのセットアップ ウィンドウが表示されます。
- 14. 送信元および宛先ネットワークについての詳細が記載されている **ネットワークのセットアップ** ページが表示されます。次へをクリックします。
- 15. 完了準備 のウィンドウで、選択済みの OVF 展開タスクのオプションを確認し、終了 をクリックします。展開ジョブが実行し、ジョブの進捗状況を追跡できる場所に完了ステータスウィンドウが表示されます。

### OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート

この手順は、[download\\_software@dell.com](mailto:download_software@dell.com) から電子メールの添付としてライセンスを受け取っていることを前提としています。複数のライセンスをお持ちの場合は、ライセンスを続けて追加することができます。ライセンスファイルは XML 形式のファイルでご利用いただけます。

 **メモ:** お使いのアプライアンス向けにカスタム証明書をアップロードする場合は、vCenter 登録前に新しい証明書をアップロードする必要があります。vCenter 登録後に新しいカスタム証明書をアップロードすると、Web Client に通信エラーが表示されます。この問題を修正するには、vCenter 登録を解除してから登録する必要があります。

1. vSphere Web Client から ホーム → ホストとクラスタ を選択し、左ペインで先ほど展開した OpenManage Integration の場所を特定して、**仮想マシンの電源をオンにする** をクリックします。展開中に **展開後に電源を入れる** のチェックボックスを選択した場合、仮想マシンには展開後に自動的に電源が入ります。
2. メインの VMware vCenter ウィンドウの **コンソール** タブをクリックして、管理コンソールを起動します。
3. OpenManage Integration for VMware vCenter が起動を終了するまで待ち、管理者のユーザー名（デフォルトは Admin）を入力してパスワードを設定します。
4. OpenManage Integration for VMware vCenter のネットワークおよびタイムゾーン情報を設定します。

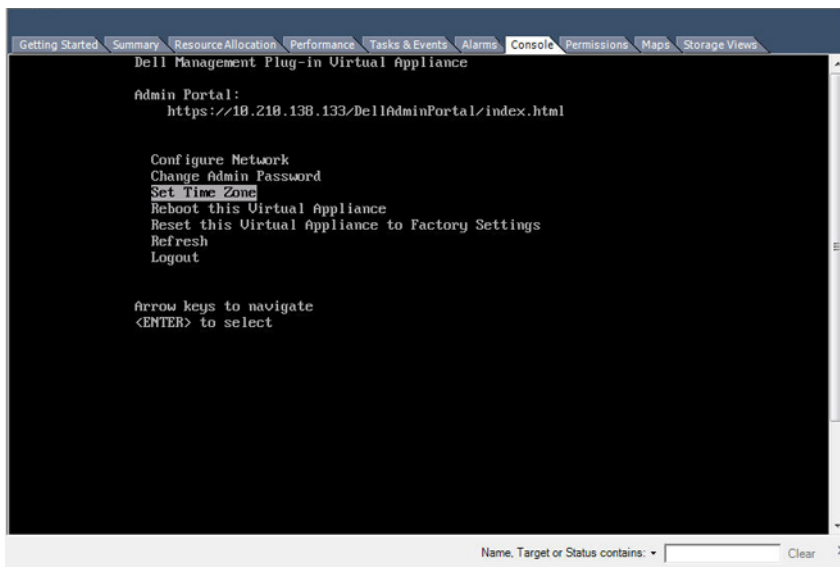


図 1. コンソールタブ

5. 製品の管理コンソールを開くには、ウェブブラウザを開いてアプライアンスの IP アドレスまたはホスト名を入力します。IP アドレスは ESXi ホスト IP アドレスではなく、アプライアンス VM の IP アドレスです。管理コンソールには、コンソール上部に示される URL を使用してアクセスできます。

例えば：<https://10.210.126.120> または <https://myesxihost> です。

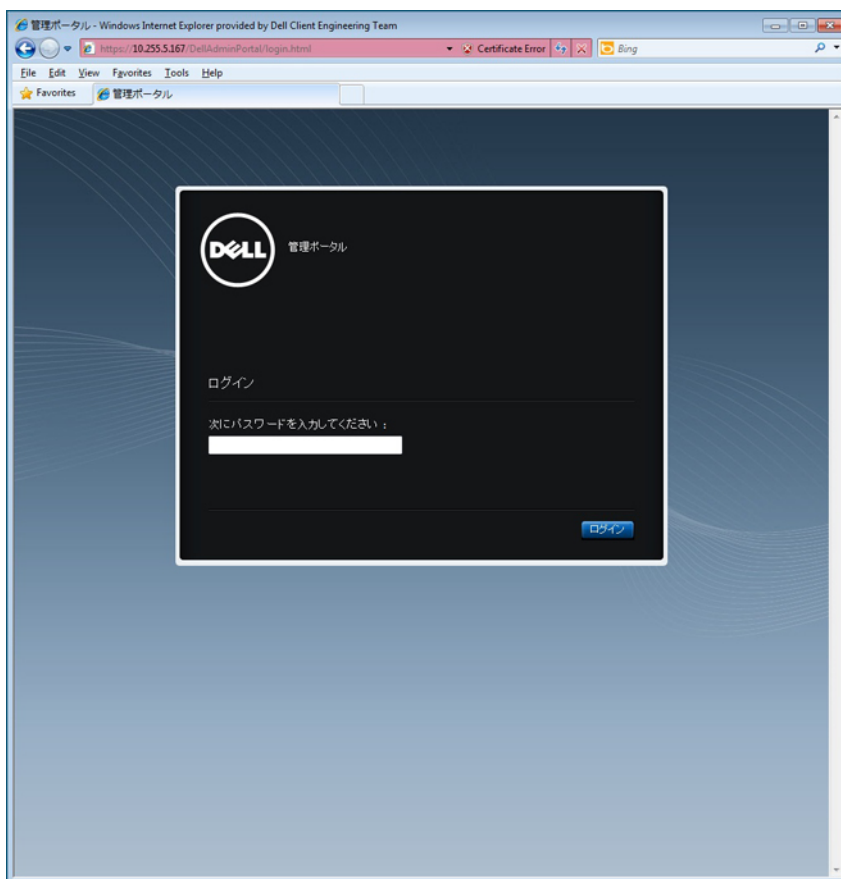


図 2. 管理コンソール

6. 管理コンソールのログインウィンドウでパスワードを入力し、**ログイン**をクリックします。



図 3. 管理コンソール内からの vCenter 登録ウィンドウ

7. vCenter 登録 ウィンドウで、**新規 vCenter Server の登録** をクリックします。
8. **新規 vCenter Server の登録** ウィンドウで、次の手順を実行します。
  - a. **vCenter の名前** で、**vCenter サーバー IP またはホスト名** テキストボックスにサーバー IP またはホスト名を入力した後で、**説明** テキストボックスにオプションの詳細説明を入力します。
  - b. **管理者ユーザーアカウント** の **管理者ユーザー名** テキストボックスに、管理者ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー、ドメイン/ユーザー、またはユーザー@ドメインの形式で入力してください。管理者ユーザーアカウントは OpenManage Integration for vCenter 管理によって使用されます。
  - c. **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。
  - d. **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
9. **登録** をクリックします。
10. 次の手順のいずれか 1 つを実行します。
  - OpenManage Integration for VMware vCenter の評価バージョンをお使いの場合は、手順 12 に進みます。
  - 完全製品バージョンをお使いの場合は、ライセンスファイルが E-メールで送付されるので、このライセンスを仮想アプライアンスにインポートする必要があります。ライセンスファイルをインポートするには、**ライセンスのアップロード** をクリックします。
11. **ライセンスのアップロード** ウィンドウで **参照** ボタンをクリックしてライセンスファイルの参照先を指定します。**アップロード** をクリックしてライセンスファイルをインポートします。

 メモ:

- ライセンスが変更または編集されている場合、そのライセンスは使用できなくなるため、最初のご注文番号を記載して **download\_software@dell.com** まで電子メールを送る必要があります。ライセンスファイルに関するすべてのサポートは、最初のご注文番号を記載して **download\_software@dell.com** まで電子メールをお送りください。本手順ではライセンス XML ファイルが使用され、ハードコーディングされたファイル名はありません。
- アップロードに個々のライセンス XML を使用することはできないので、その代わりに圧縮ファイルに含まれたライセンス XML を使用します。

12. OpenManagement for VMware vCenter が登録されたら、Web Client ホームページの管理カテゴリに OpenManagement アイコンが表示されます。

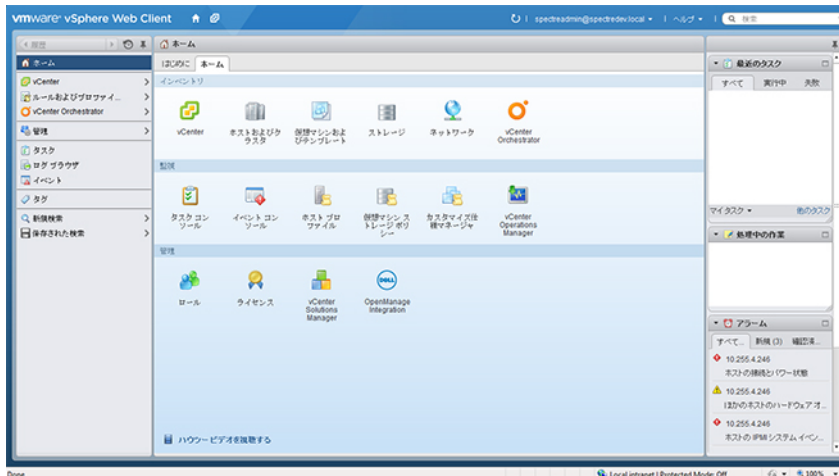


図 4. OpenManagement for VMware vCenter が vCenter に正常に追加されました。

### インストールの検証

次の手順は OpenManagement for VMware vCenter のインストールが正常に行われたことを検証します。

1. vSphere Client ウィンドウをすべて閉じ、新しい vSphere Web Client を開きます。
2. OpenManagement Integration アイコンが vSphere Web Client 内に表示されることを確認します。
3. vCenter Server から仮想アプライアンス IP アドレスまたはホスト名宛てに ping コマンドの実行を試行して、vCenter が OpenManagement for VMware vCenter と通信可能であることをチェックします。
4. vSphere Web Client でプラグイン → 管理対象プラグインをクリックします。プラグインマネージャ ウィンドウで OpenManagement for VMware vCenter がインストール済みで有効化されていることを検証します。

### OMI プラグインの 2.x から 2.3.1 へのアップグレード

旧バージョンから 2.3.1 への RPM アップデートのサポートはありません。

#### 2.x から 2.3.1 への移行のための移行パス

バックアップとリストアのパスを使用して、旧バージョン (2.x) からバージョン 2.3.1 リリースに移行することができます。あるいは、旧バージョンをアンインストールした後、v2.3.1 OVF を改めて展開することもできます。

旧バージョンから OpenManage Integration for VMware vCenter 2.3.1 バージョンに移行するには、次の手順を実行します。

1. 旧リリース (v2.x) 用のデータベースのバックアップを行います。詳細については、『**OpenManage Integration for VMWare vCenter version 2.3.1 User's Guide**』 (OpenManage Integration for VMWare vCenter バージョン 2.3.1 ユーザーズガイド) を参照してください。
2. vCenter から旧アプライアンスの電源を切ります。

 **メモ:**

プラグインの登録は vCenter から解除しないでください。プラグインを vCenter から登録解除すると、プラグインによって vCenter に登録されたアラームのすべてが削除され、vCenter でアラームに対して行われたアクションなどのカスタマイズのすべてが削除されます。バックアップ後にすでにプラグインを登録解除した場合の詳細については、本ガイドの「**バックアップ後に旧プラグインを登録解除した場合のリカバリ方法**」の項を参照してください。


3. OpenManage Integration バージョン 2.3.1 OVF を導入します。OVF の導入についての詳細は、本ガイドの「**vSphere Web Client を使用した OpenManage Integration for VMware vCenter OVF の導入**」の項を参照してください。
4. OpenManage Integration バージョン 2.3.1 アプライアンスに電源を入れます。
5. アプライアンスでネットワーク、タイムゾーンなどをセットアップします。新しい OpenManage Integration バージョン 2.3.1 アプライアンスの IP アドレスは、旧アプライアンスのものと同じである必要があります。このガイドの、「**OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート**」を参照してください。**注意: 2.3.1** アプライアンスの IP アドレスが旧アプライアンスのものと同じでない場合、プラグインが正常に機能しない可能性があります。その場合は、すべての vCenter インスタンスの登録を解除してから、再度登録する必要があります。
6. 新規アプライアンスにデータベースを復元します。詳細については、『**OpenManage Integration for VMWare vCenter Version 2.3.1 User Guide**』 (OpenManage Integration バージョン 2.3.1 ユーザーガイド) の「**バックアップからのデータベースの復元**」の項を参照してください。
7. 新しいライセンスファイルをアップロードします。詳細については、本ガイドの「**OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート**」を参照してください。
8. アプライアンスを検証します。データベース移行が正常に行われたことを確認するための詳細については、本ガイドの「**インストールの検証**」を参照してください。
9. 登録された vCenter すべてでインベントリを実行します。

 **メモ:**

アップグレード後は、プラグインによって管理されているホストのすべてで再度インベントリを実行することが推奨されます。オンデマンドでインベントリを実行するための手順に関する詳細は、「**インベントリジョブの実行**」を参照してください。

新しい OpenManage Integration バージョン 2.3.1 アプライアンスの IP アドレスが旧アプライアンスの IP アドレスから変更された場合、新しいアプライアンスをポイントするように SNMP トラップのトラップ送信先を設定する必要があります。第 12 および 13 世代サーバーでは、これはホスト上でインベントリを実行することによって修正されます。旧仕様に準拠する第 11 世代以前のホストでは、この IP 変更が非準拠として表示され、OMSA の設定が必要になります。ホストの準拠性を修正するための詳細については、『**OpenManage Integration for VMWare vCenter Version 2.3.1 User Guide**』 (OpenManage Integration for VMWare vCenter バージョン 2.3.1 ユーザーガイド) で「**非準拠 vSphere ホストの修正ウィザードの実行**」の項を参照してください。

*バックアップ後に旧プラグインを登録解除した場合のリカバリ方法*  
旧バージョンのデータベースのバックアップ取得後にプラグインの登録を解除した場合は、移行に進む前に次の手順を実行してください。

 **メモ:** プラグインの登録解除により、プラグインによって登録済みアラームに行われたカスタマイズのすべてが削除されています。次の手順では、カスタマイズを復元することはできませんが、アラームをデフォルト状態で再登録します。

1. 「**2.x から 2.3.1 への移行のための移行パス**」の項の手順 3~5 を実行します。
2. 旧プラグインで以前登録したものと同一 **vCenter** にプラグインを登録します。
3. 「**2.x から 2.3.1 への移行のための移行パス**」の項の手順 6~9 に進み、移行を完了します。


# OpenManage Integration for VMware vCenter の設定または編集方法の理解

OpenManage Integration for VMware vCenter の基本インストールが完了した後、Dell OpenManage Integration アイコンをクリックすると、初期設定ウィザードが表示されます。初回起動時には、初期設定ウィザードを使用して設定内容を設定します。以降のインスタンスについては、**設定** ページを使用します。また、初期設定ウィザードからは、保証、インベントリ、イベント、およびアラームの設定の編集を行うこともできます。初期設定ウィザードの使用は最も一般的な手段ですが、この作業は OpenManage Integration for VMware vCenter の **OpenManage Integration** → **管理** → **設定** ページからでも実行することができます。初期設定ウィザードの詳細は、『OpenManage Integration for VMWare vCenter User Guide』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーガイド）を参照してください。

## 設定ウィザード使用の設定タスク

初期設定ウィザードを使用して、1つの vCenter、または複数の登録済み vCenter に以下を設定することができます。

1. [vCenter の選択](#)
2. [新しい接続プロファイルの作成](#)
3. [インベントリジョブのスケジュール](#)
4. [保証取得ジョブの実行](#)
5. [イベントおよびアラームの設定](#)

 **メモ:** 初期設定ウィザードは、**開始** ページの **基本タスク** の下にある **初期設定の開始ウィザード** のリンクからも行うことができます。

## 設定ウィザードようこそページ

OpenManage Integration for VMware vCenter をインストールした後、設定を行う必要があります。

1. vSphere ウェブクライアントで、**ホーム**、**OpenManage Integration** アイコンの順でクリックします。
2. 初めて **OpenManage Integration** アイコンをクリックすると、**設定ウィザード** が表示されます。このウィザードには **OpenManage Integration** → **はじめに** → **初期設定ウィザードの開始** ページからもアクセスできます。

## vCenter の選択



vCenter の選択ページでは、特定の vCenter を選択して設定を行う、またはすべての vCenters を選択して設定を行うことができます。

1. **初期設定ウィザード** のようこそ画面で、**次へ** をクリックします。
2. **vCenters** ドロップダウンリストから1つ、またはすべての vCenter を選択します。まだ設定されていない、またはお使いの環境に新規に追加された vCenter については、個々の vCenter を選択します。vCenter の選択ページでは、1つ、または複数の vCenters を選択して設定を行うことができます。
3. **次へ** をクリックして、接続プロファイルの説明ページに進みます。

# 初期設定ウィザードを使用した新規接続プロファイルの作成


接続プロファイルは、仮想アプライアンスが Dell サーバーと通信するために使用する iDRAC およびホスト資格情報を保存します。Dell サーバーを OpenManage Integration for VMware vCenter で管理するには、それぞれのサーバーが接続プロファイルに関連付けられている必要があります。複数のサーバーを 1 つの接続プロファイルに割り当てることができます。接続プロファイルの作成方法は、設定ウィザードと **OpenManage Integration for VMware vCenter** → **設定** オプションではほぼ同様です。

iDRAC とホストには、Active Directory 資格情報を使用してログインすることができます。接続プロファイルで Active Directory 資格情報を使用する前に、Active Directory に Active Directory ユーザーのアカウントが存在し、iDRAC とホストが Active Directory ベースの認証のために設定されている必要があります。


-  **メモ:** アクティブディレクトリ資格情報は、iDRAC とホストの両方で同一に設定することも、個別の Active Directory 資格情報として設定することもできます。ユーザー資格情報には管理者権限が必要です。
-  **メモ:** 追加されたホストの数が接続プロファイルの作成に対するライセンス制限を超過する場合は、接続プロファイルを作成できません。

ウィザードを使用する新規接続プロファイルの作成には、以下を行います。

1. **接続プロファイルの説明** ページで、**次へ** をクリックして次に進みます。
2. **名前と資格情報** ページで、**接続プロファイル名** と、オプションの **接続プロファイルの説明** を入力します。
3. **名前と資格情報** ページの **iDRAC 資格情報** で、次のいずれかを実行します。

-  **メモ:** iDRAC アカウントには、ファームウェアのアップデート、ハードウェアプロファイルの適用、およびハイパーバイザの展開に管理者権限が必要です。


- 使用する Active Directory 用に iDRAC の設定および有効化が Active Directory ですで行われている場合は、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外は、iDRAC 資格情報の設定に進みます。
  - **Active Directory ユーザー名** テキストボックスに、ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン/ユーザー名またはユーザー名@ドメインのいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は 256 文字に制限されています。ユーザー名の制限については、Microsoft Active Directory マニュアルを参照してください。
  - **Active Directory パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。
  - **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
  - 次のいずれかの手順を実行します。
    - \* iDRAC 証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続でその証明書の検証を行うには、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスを選択します。
    - \* iDRAC 証明書を保存せず、今後すべての接続で iDRAC 証明書チェックを実行しないようにするには、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスのチェックを外します。
- **Active Directory なしで iDRAC 資格情報を設定するには、次のいずれかを行います。**
  - **ユーザー名** テキストボックスにユーザー名を入力します。ユーザー名は 16 文字に制限されています。お使いのバージョンの iDRAC におけるユーザー名の制限についての情報は、iDRAC マニュアルを参照してください。
  - **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 20 文字に制限されています。


- パスワードの**確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
  - 次のいずれかの手順を実行します。
    - \* iDRAC 証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続でその証明書の検証を行うには、**証明書チェックの有効化** チェックボックスを選択します。
    - \* iDRAC 証明書を保存せず、今後すべての接続で iDRAC 証明書チェックを実行しないようにするには、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスのチェックを外します。
4. ホストのルートエリアで、次のいずれかを実行します。
- 使用する Active Directory 用にホストの設定および有効化が **Active Directory** ですで行われている場合は、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外は、iDRAC 資格情報の設定に進みます。
    - **Active Directory ユーザー名** テキストボックスにユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン/ユーザー名、またはユーザー名@ドメインのいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は 256 文字に制限されています。  
 ホストユーザー名とドメインの制限については、次を参照してください。  
 ホストユーザー名要件：
      - a. 1~64 文字長
      - b. 印刷可能文字
      - c. 無効な文字："/\[:;|=,+\*?<>@
 ホストドメイン要件：
      - a. 1~64 文字長
      - b. 最初の文字はアルファベットであることが必須
      - c. スペースは使用不可
      - d. 無効な文字："/\:|,\*?<>~!@#\$%^&'(){}\_
    - **Active Directory パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。
    - **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
    - 次のいずれかの手順を実行します。
      - \* ホスト証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続でその証明書の検証を行うには、**証明書チェックの有効化** チェックボックスを選択します。
      - \* ホスト証明書を保存せず、今後すべての接続で iDRAC 証明書チェックを実行しないようにするには、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスのチェックを外します。
  - **Active Directory なし**でホスト資格情報を設定するには、次のいずれかを行います。
    - **ユーザー名** テキストボックスにあるユーザー名は **root** です。これはデフォルトのユーザー名で、変更することはできませんが、**Activate Directory** が設定されている場合、**root** に限らず任意の **Active Directory ユーザー名** を選択することができます。
    - **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。
      -  **メモ:** OMSA 資格情報は、ESX および ESXi ホストに使われたものと同じです。
    - **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。

- 次のいずれかの手順を実行します。
  - \* ホスト証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続でその証明書の検証を行うには、**証明書チェックの有効化** チェックボックスを選択します。
  - \* ホスト証明書を保存せず、今後すべての接続で **iDRAC 証明書チェック** を実行しないようにするには、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスのチェックを外します。
- 5. **次へ** をクリックします。
- 6. **関連ホスト** ページで、接続プロファイルのホストを選択し、**次へ** をクリックします。
- 7. 接続プロファイルをテストするには、1つ、または複数のホストを選択し、**テスト接続** ボタンを選択します。このステップは任意です。これはホストおよび **iDRAC** の資格情報が正しいかどうかをチェックするために使用します。
- 8. プロファイルを完了するには、**次へ** をクリックします。 **iDRAC Express** または **Enterprise** カードがないサーバーでは、**iDRAC テスト接続結果は、このシステムには該当なし** と表示されます。

## インベントリジョブのスケジュールウィザード

インベントリのスケジュールの設定は、設定ウィザードと、**OpenManage Integration** 管理 セクションの 設定 オプションからとほぼ同じです。

 **メモ:** **OpenManage Integration for VMware vCenter** が今後もアップデートされた情報を表示することを確実にするため、定期的なインベントリジョブをスケジュールすることをお勧めします。インベントリジョブは最小限のリソースのみを消費し、ホストのパフォーマンスを劣化させることはありません。

 **メモ:** すべてのホストのインベントリが実行されると、シャーシが自動的に検出されます。シャーシがシャーシのプロファイルに追加されると、シャーシのインベントリが自動的に実行されます。複数の **vCenters** を持つ **SSO** 環境では、スケジュールされた時刻にいずれかの **vCenters** でインベントリが実行されると、すべての **vCenters** でシャーシのインベントリが自動的に実行されます。

インベントリジョブのスケジュールには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのインベントリのスケジュール** ウィンドウで、以下の中から1つを行います。
  - インベントリをスケジュールできるように、**インベントリデータの取得を有効にする** チェックボックスはデフォルトで選択されています。
2. **インベントリデータの取得スケジュール** で、次の手順を行います。
  - a. インベントリを実行する各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。デフォルトでは **毎日** が選択されています。
  - b. テキストボックスに、時刻を **HH:MM** フォーマットで入力します。  
 入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
3. 変更内容を適用して続行するには、**次へ** をクリックして保証スケジュール設定に進みます。

## 保証取得ジョブウィザードの実行

保証取得ジョブ設定は、ウィザードと **OpenManage Integration for VMware vCenter** の設定オプション間でほとんど同じです。さらに、ジョブキューから保証取得ジョブを今すぐ実行することもできます。スケジュールされたジョブは、ジョブキューにリストされます。複数の **vCenter** がある **SSO** 環境では、**vCenter** のいずれかで保証が実行されるときに、すべての **vCenter** でシャーシ保証が実行されます。保証がシャーシプロファイルに追加されたとき、保証は自動で実行されません。

保証取得ジョブを実行するには以下を行います。


1. **設定ウィザードの保証スケジュール** ウィンドウで、以下の中から1つを行います。

- **保証データの取得を有効にする** チェックボックスを選択すると、保証をスケジュールできます。
2. **保証データの取得スケジュール**の下で、次の操作を実行します。
    - a. 保証を実行したい各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。
    - b. テキストボックスに、時刻を **HH:MM** フォーマットで入力します。

入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
  3. 変更内容を適用して続行するには、**次へ**をクリックして保証スケジュール設定に進みます。


## イベントおよびアラームの設定ウィザード


イベントおよびアラームの設定は、設定ウィザードを使用、または **OpenManage Integration for VMware vCenter** のイベントとアラームの設定オプションから行います。

 **メモ:** Dell PowerEdge 第 12 世代サーバーより前のホストでは、ホストコンプライアンス修正オプションを使用して OMSA 内リストのトラップ宛先を編集し、vCenter でホストイベントを表示します。

イベントおよびアラームを設定するには、以下を行います。

1. **初期設定ウィザードのイベント掲載レベル**で、以下のいずれかを選択します。
  - すべてのイベントを掲載をしない - ハードウェアイベントはブロックされます。
  - すべてのイベントを掲載する - すべてのハードウェアイベントが掲載されます。
  - 重要および警告イベントのみを掲載する - 重要または警告レベルのハードウェアイベントのみが掲載されます。
  - 仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載する - 仮想化関連の重要および警告イベントのみが掲載されます。これはデフォルトのイベント掲載レベルです。
2. すべてのハードウェアアラームとイベントを有効化するには、**Dell ホストのアラームを有効にする** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** アラームが有効化されている Dell ホストは、メンテナンスモードに入ることによって特定重要イベントの一部に対応します。
3. **Dell アラーム警告の有効化** ダイアログボックスが表示されたら、**続行**をクリックして変更を承諾、または **キャンセル**をクリックします。

 **メモ:** この手順は、**Dell ホストのアラームを有効にする** が選択されている場合にのみ表示されます。
4. ウィザードを続行するには、**適用**をクリックします。

## その他の構成設定

次の設定はオプションですが、Plug-In 使用して VMware vCenter 内のホストを監視するために使用することができます。

- [保証期限通知](#)
- [ファームウェアアップデートリポジトリ](#)
- [OMSA ウェブサーバー URL](#)

## 保証期限通知

### 保証期限通知の設定の表示

1. Dell OpenManage Integration for VMware vCenter で**管理** → **設定**タブをクリックします。
2. **アプライアンス設定** 下で **保証期限通知** をクリックします。  
**保証期限通知** ページに、以下の内容が表示されます。
  - 設定が有効または無効のどちらになっているかを表示します。
  - 初回警告設定に設定された日数。
  - 重要警告設定に設定された日数。
3. 保証期限通知を設定するには、[保証期限通知の設定](#)を参照してください。

### 保証期限通知の設定

保証期限を警告するように保証期限しきい値を設定することができます。

1. Dell OpenManage Integration for VMware vCenter で**管理** → **設定**タブをクリックします。
2. **アプライアンス設定** 下の **保証期限通知** の右側で **編集** アイコンをクリックします。
3. **保証期限通知** ダイアログボックスで、次の手順を行います。
  - a. この設定を有効にするには、**ホストの保証期限通知を有効にする** チェックボックスを選択します。選択すると、保証期限通知が有効になります。
  - b. **最小日数しきい値アラート** で次の手順を行います。
    1. **警告** ドロップダウンリストで、保証期限の何日前にアラートを受信したいかを日数で選択します。
    2. **重要** ドロップダウンリストで、保証期限の何日前にアラートを受信したいかを日数で選択します。
4. **適用** をクリックします。

## ファームウェアアップデートリポジトリ

OpenManage Integration for VMware vCenter の **設定** タブで、サーバーがファームウェアアップデートを受信する場所を設定することができます。これはグローバル設定です。

ファームウェアリポジトリ設定には、展開されたサーバーをアップデートするために使用されるファームウェアカタログの場所が含まれています。カタログの場所には次のタイプがあります。

- **Dell (ftp.dell.com)** — Dell (ftp.dell.com) のファームウェアアップデートリポジトリを使用します。OpenManage Integration for VMware vCenter は選択されたファームウェアアップデートを Dell リポジトリからダウンロードします。
- **共有ネットワークフォルダ** — Dell Repository Manager™ によって作成されます。これらのローカルリポジトリは、CIFS または NFS ファイル共有にあります。

### ファームウェアアップデートリポジトリの設定

OpenManage Integration for VMware vCenter の **設定** タブでは、ファームウェアアップデートリポジトリを設定することができます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、**管理** → **設定** をクリックします。
2. **アプライアンス設定** 下の **ファームウェアアップデートリポジトリ** の右側にある編集アイコンをクリックします。
3. **ファームウェアアップデートリポジトリ** ダイアログボックスで、次のいずれかを選択します。
  - **Dell オンライン** — ステージングフォルダがあるデフォルトのファームウェアリポジトリ (ftp.dell.com) です。OpenManage Integration for VMware vCenter が選択されたファームウェアアップデートをダウンロードし、それらをステージングフォルダに保存したら、ユーザーがファームウェアウィザードを実行してファームウェアをアップデートする必要があります。
  - **共有ネットワークフォルダ** — これらは Dell Repository Manager アプリケーションで作成されます。Windows ベースのファイル共有でこれらのローカルレポジトリを確認し、ライブリンクを使って Dell Repository Manager に移動します。
4. **共有ネットワークフォルダ** を選択した場合は、次を実行します。
  - a. 次のフォーマットを使って、カタログファイルの場所を入力します。
    - xml ファイル用の NFS 共有 : `host/share/filename.xml`
    - gz ファイル用の NFS 共有 : `host/share/filename.gz`
    - xml ファイル用の CIFS 共有 : `\\host\share\filename.xml`
    - gz ファイル用の CIFS 共有 : `\\host\share\filename.gz`
  - b. 選択したリポジトリパスに表示されるファイルのダウンロードが進行中の場合、アップデートソースの選択ページにダウンロードが進行中であることを通知するためのメッセージが表示されます。
5. ファイルのダウンロードが完了したら、**適用** をクリックします。

## OMSA ウェブサーバー URL

OMSA リンクは、OMSA がインストールされているホストのための OMSA GUI を起動する URL です。

 **メモ:** OMSA が必要なのは、Dell PowerEdge 第 11 世代とこれ以前の世代のサーバーのみです。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の**管理** → **設定**を選択します。
2. vCenter **設定** の下、OMSA ウェブサーバー URL の右側で **編集** をクリックします。
3. **OMSA ウェブサーバー URL** ダイアログボックスに URL を入力します。  
HTTPS も含めて完全な URL を入力してください。
4. これらの**設定をすべての vCenter に適用する** チェックボックスを選択して、OMSA URL をすべての vCenter に適用します。  
このチェックボックスを選択しないと、OMSA URL は 1 つの vCenter にしか適用されません。
5. 対応するホストの **概要** タブから、リンクが機能しているかどうかを確認します。
6. Dell ホスト情報内で OMSA コンソールリンクが機能するかどうかを確認します。